

## ライブ業界日本最大の展示会

「第7回ライブ・エンターテイメント EXPO」

「第3回スポーツビジネス産業展」

「第7回イベント総合 EXPO」

「第3回地方創生 EXPO」が開催された

神谷 直亮

リード エグジビション ジャパンが主催した掲題の4つの展示会が2月5日から7日まで幕張メッセで開催され560社・団体が出展した。本稿では、「第7回ライブ・エンターテイメント EXPO」と「第3回スポーツビジネス産業展」を中心にレポートする。

「ライブを始めとする各種ショーの開催に必要な機器、グッズ、システムが一堂に」を旗印に掲げた「第7回ライブ・エンターテイメント EXPO」の会場には、映像センター、エルテック、DESAY インテリジェント・テクノロジー (DESAY)、Uniview LED、クリエイティブ・スペース、LianTronics、エレックスなどが出展して予想以上の賑わいを見せていた。

映像センターは、韓国ギャラクシア・エレクトロニクス (Galaxia Electronics) 製の多彩な LED ビジョンでステージを飾り、会場で最も華やかな演出を行って注目の的になった。正面、天井、床面、両サイドの5面から構成されるステージの正面を飾ったのは、横 8.4m x 縦 6m の GL6 型ディスプレイで、ピクセルピッチは 6.25mm だ。類似のディスプレイが床面にも敷設され、すばらしい立体感を演出していた。さらに横 16.8 m x 縦 6m の GL9 型大画面 (ピクセルピッチ 9.375mm) でステージと会場の通路を仕切り、こちらの方も来場者の目を見張らせた。

ステージ上では、英国のキネシス (Kinesys) 社のビジュアルモーションコントロールシステムを駆使して、大きな和太

鼓を天井からステージの真正面に降ろし新しい演奏者がこれを叩くというライブショーが行われた。この大太鼓の演奏に合わせて、踊りまくる2人の女性ダンサーの演技も見ものであった。

説明員によれば、「ビッグアーティストのライブなどで、巨大な機材や映像を自在に移動させたり空間で躍動させたりできるのが Kinesys システムの特色で、NHK の紅白歌合戦の舞台でも使われた」という。

毎年のように超大画面で来場者を圧倒してきたエルテックは、今回も正面に 9m x 5m、床面に 9m x 3m の LED ディスプレイを設置して来場者の目を引いた。中国のレイヤード (Leyard) 製で、それぞれ 10mm ピッチ、5mm ピッチの高精細映像を上映していた。特色としては、床面のデ



写真1 映像センターは、モーションコントロールシステムを使って、大きな和太鼓を天井からステージの正面に降ろす演出を行った。



写真2 エルテックは、ブースの正面に 9m x 5m の高精細大画面 LED ディスプレイを設置して来場者の目を引いた。



写真3 エルテックは、直径5mの風船に4K UHD プロジェクターで映像を投影して来場者の意表を突いた。



写真4 Uniview LEDは、LED ディスプレイを3台組み合わせた奥行きのある映像(上)を上映し来場者の注目を集めた。

ディスプレイがインタラクティブシステムになっており、来場者は床を踏みながら刻々と変わる映像を楽しんでいた。

同社は、さらに直径5mの風船を天井に吊るし、この巨大な球体にバルコ製の4K UHD プロジェクター「UDM-4K22」で映像を投影して来場者の意表を突いた。担当者によれば、「バルコの新しい高輝度 DLP レーザープロジェクターで、21,000 センタールーメンを誇る製品」という。

DESAY は、同社のハイエンド LED ディスプレイ「HD Xシリーズ X1.5i」(画素ピッチ 1.563mm) を前面に押し出して出展した。ブースの説明員は、「DESAY は 2001 年創業で、LED ディスプレイの販売実績は、アジアで最大、世界市場で第3位である。今回紹介できなかったが、超高精細度のディスプレイが必要なら 0.781mm ピッチの TRB-07 を提供できる」と語っていた。

初出展を飾った中国の Uniview LED は、屋外用 LED ディスプレイ「InnoL Pro3.9」(画素ピッチ 3.9mm) をシームレスに3台組み合わせ、3面鏡スタイルにして出展した。サイズは、正面が2m x 1.5m、両サイドが2.5m x 1.5mである。屋内用に

ついて聞いて見たら、「EX 1.9 (ピクセルピッチ 1.95mm) から EX 3.9 (3.9mm) まで6種類そろえている」と答えていた。

「イベント企画、演出、舞台、照明など、トータルコーディネートを行うプロ集団」を謳ったクリエイティブ・スペースは、岐阜県に本社を構えて活動しているという。今回ブースでは、低予算で大掛かりな舞台設営を実現する秘密を公開して関心を買った。その一つは、木工製品ではなく再利用可能な軽量アルミフレームの使用、二つ目は自社保有のLEDビジョンの活用、三つ目は、独自の自動オペレーションシステムの導入である。

中国の深センから初出展した LianTronics は、屋内型レンタルディスプレイ「RE2S」の売込みに余念がなかった。サイズは5m x 3mで、ピクセルピッチは2.6mmである。同社はこの他に、「ファインピッチのVシリー

ズを4種、屋外型LSシリーズを4種供給できる態勢が整っている」と語っていた。

兵庫県尼崎市に本拠を置くエレックスは、Rocketsign 製 180 インチの超軽量モデル「LP3871」(ピクセルピッチ 3.875mm) を出展した。4 x 4 の16キャビネット構成で、重量はわずか80kgとこのことであった。

予想外だったのは、特別企画として「最先端パブリックビューイング特設シアター」が会場の奥まったスペースに設けられ、8Kで撮影した「青森ねぶた」「石見神楽」「長岡花火」などの上映が行われた。

**SWE DISH**

緊急報道  
ハイビジョン映像伝送  
Ku-band/X-band

**CCTスーツケース** 90cmφ型 2タイプ有り  
120cmφ型

**衛星通信用超小型可搬アンテナ**

Suitcase CCT Satellite Communications Terminal

5分で運用開始

IATA対応収納ケース  
その他にも1ケース収納型から3ケース分割型など各種ケースあり

**エーティコミュニケーションズ株式会社**

<http://www.bizsat.jp> TEL : 03-5772-9125

**AT Communications k.k.**



写真5 LianTronicsは、5m x 3mの高精細屋内型レンタルディスプレイの売込みに余念がなかった。



写真6 NTT西日本は、Pixelot製AIカメラを出展し、自動撮影したというハンドボールの試合映像を再生して見せていた。

「第3回スポーツビジネス産業展」の会場の主流は、「eスポーツビジネスワールド」で、RIZeST、JCG、スカパーJSATなどが出展していた。

「ゲームを超えて。ゲームをスポーツエンターテインメントに」をキャッチフレーズに掲げるRIZeSTは、e-Sports大会・イベントの制作運営、収録業務、ライブ配信を3本柱にしている。今回同社は、秋葉原で運営する「e-Sports Square」で得た実績を基に、制作に必要な技術・機材・ノウハウなどについて来場者に分かりやすく説明していた。中でも機材面では、実際に使用しているブラックマジックデザインの4Kカメラ、スイッチャー、コンバーターの紹介が行われた。

オンラインを中心としたe-Sports大会プラットフォームを提供するJCGは、ブースでミニセミナーを開催し、「e-Sportsイベントの企画・運営のトータルソリューション」や「e-Sportsオンライン大会プラットフォーム」に関するプレゼンテーションを行って注目を集めた。

スカパーJSATは、「e-Sportsを映像化し、世界へ配信」を旗印に掲げて出展した。番組制作、国内・海外への伝送、国内・アジアでの放送、プロモーションなど

ワンストップで実現できるのが同社の強みだ。ブースでは、昨年の「PRIMAL-Rocket League Japan Series」のスカパーオンデマンドでの生中継と、東京ゲームショーで「e-Sports X」のステージ運営、映像制作、配信を行った実績を強調していた。また、昨年9月に子会社のWAKUWAKU JAPANが、e-Sports大会のライブパブリックビューイングをインドネシア、台湾、マレーシアで同時開催した実績にも触れて実力を誇示した。

スポーツビジネスの分野では、NTT西日本、パナソニックインフォメーションシステムズ、富士通、アイリスオーヤマ、NECネットエスアイなどがブースを構えていた。NTT西日本は、イスラエルのPixelot製のカメラを出展して、このAIカメラで自動撮影したというハンドボールの試合映像を再生して見せた。ブースの担当者は、「この撮影システムには、カメラが4台組み込まれており、広視野で30fpsの映像を撮影できる。動きの極めて速いスポーツ用には、60fpsの製品もある」と説明していた。

パナソニックインフォメーションシステムズは、フランスのVOGO社と提携して行っている「VOGO Sport」の売込みに

余念がなかった。「Multi Camera、Slow Motion、Zoom、Replayの4つの動画配信機能に基づく自分だけの観戦スタイルを創れる」というのがセールスポイントだ。

富士通は、「スポーツフォーム可視化ソリューション」「スポーツ向けDMP(Data Management Platform)」を目玉にして出展した。「スポーツフォーム可視化ソリューション」は、Kinectや3Dセンサー付きカメラに頼らず、市販のカメラ2台とディープラーニングを駆使してスポーツ選手の骨格を測定して動きを分析できるのがミソである。「スポーツ向けDMP」は、会員データ、大会参加データ、来場データ、ヘルスケアデータなどを活用することで、事業拡大、ファン獲得、選手強化に貢献しようという試みと言える。

アイリスオーヤマは、販売を開始したばかりという65インチ4Kテレビをブースの正面に設置し多彩なスポーツ映像を流して来場者を楽しませていた。

**Naoakira Kamiya**  
衛星システム総研 代表  
メディア・ジャーナリスト